

日本インテリア学会第22回大会 特別講演

JASIS2010

- 日 時 2010年10月24日(日) 13:00~14:00
■場 所 大阪樟蔭女子大学「2号棟2階円形ホール」
■テ ー マ 大阪の居住文化とインテリア
■講 師 高田光雄<京都大学大学院工学研究科教授>



講演概要

経済の中心、天下の台所として発達した大阪のまち、住宅は、江戸時代にその基盤がつくられました。大阪の都市構造は、地形や水路を活用したゾーニングを基盤に、商家や町人住宅の形態と一体化した区割りによって成立していました。その後、主要交通機関が船から車輜に代わり、海外交易による西欧デザインが導入されるなど、都市構造と建物形態は大きく変化していきます。また、住宅では江戸時代には約8割といわれる貸家文化が、裸貸し制度というインフィル市場を成立させています。そして今、このような大阪の居住文化を保存する活動が上町台地などで展開されています。

このように大阪独自に熟成されてきた居住文化と住空間、インテリアとの関わりについて、京都大学大学院工学研究科/高田光雄教授に語っていただきます。

講師プロフィール

高田 光雄 (たかだ みつお 京都大学大学院 工学研究科 建築学専攻 教授)
1951年生まれ、博士(工学)、一級建築士。

日本建築学会理事、都市住宅学会副会長、大阪府住宅まちづくり審議会会長職務代理、大阪市ハウジングデザイン賞審査委員会委員長、京都府建築審査会会長、京都市住宅審議会会長、舞鶴市都市計画審議会会長、京都府建築士会副会長、上町台地からまちを考える会理事等を兼務。

地域の歴史や文化を活かした住まい・まちづくりの実践的研究、少子高齢社会に対応した住まい・まちづくりと都心居住空間のデザイン、スケルトン・インフィル方式の住宅ストック再生への適用、集合住宅団地の再生、シナリオ・アプローチによる住まい・まちづくり計画手法の開発などに取り組む。大阪市立住まい情報センターの創設・運営にもかかわる。

主な著書(共著)：『NEXT21：その設計スピリッツと居住実験10年の全貌』(エクスナレッジ/2005)、『現代住宅研究の変遷と展望』(丸善/2009)、『日本における集合住宅計画の変遷』(日本放送出版協会/1998)、『地域を活かすつながりのデザイン』(創元社/2009)、『体験!まちづくり学習』(学芸出版/2003)、『都心・まちなか・郊外の共生』(晃洋書房/2010)、『少子高齢社会の都市住宅学』(ミネルヴァ書房/2002)。

主な計画作品：「泉北桃山台B団地」(堺市/1982)、「エステ南千里」(吹田市/1989)、「実験集合住宅NEXT21」(大阪市/1993)、「ふれっくすコート吉田」(東大阪市/1999)、「アーバネックス三条」(京都市/2002)。

主な受賞：日本建築学会賞(論文1996)、日本建築学会作品選奨(1996)、都市住宅学会賞(論文1998、論説2003/2005、著作2007)、日本不動産学会業績賞(2001)、日本計画行政学会計画賞(1995)、日本建築士会連合会賞(2001)、SB05 Best Paper Award(2005)など。